

2024年度 学校評価委員会

令和7年2月

学校法人織田学園 おだ認定こども園

教育・保育の質をさらに高め、充実させていくために評価委員の皆さんに評価をお願いいたします。お忙しい中、申し訳ありませんが下記の表で回答をお願いします。なお、結果につきましては、自己評価と共にまとめたのち、当園ホームページで公表させていただきます。

1. 教育方針・教育目標

- ・豊かな生活体験を通して、自我の育ちを助長し「生きる力の基礎」となる「心情」「意欲」「態度」を培う
- ・自己肯定感の持てる子どもに「元気でたくましい子」「自分や人を大切に思える子」「感性豊かな子」

2. 教育理念

- ・おだは3つのたくましさを育てます「体のたくましさ」「心のたくましさ」「人と繋がるたくましさ」

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価:A …達成できている/B…ほぼ達成できている/C…あまり達成できていない/D…達成できていない

評価対象	評価項目	園		学校関係者評価委員会	
		自己評価コメント	評価	意見	評価
地域との連携	園の教育・保育理念や方針を地域にわかりやすく伝えている。	青少協の定例会で取り組みをお知らせしている。また、「人とつながるたくましさ」についての実践報告を行事で展示した。保護者の方や来園者から取り組みがよくわかると好評をいただいた。この内容をSNSなどでも広く地域にお知らせする視点をもっていきたいと感じる。	B	・成長展のパネル展示は興味深い内容だった ・遊歩道からやHPなどで取り組みが伝わる ・地域の見守りに力を得て、理念を発信している ・SNSは情報を受けとりやすく注力への方針を評価する ・HPは子どもたちの様子をわかりやすく発信している ・なかなかわかりにくいので、遊歩道などの掲示で理念がわかるようにすると良い	AAABC A
	園は、子どもたちが高齢者・近隣の小学生、地域の人々など自分の生活に関係の深い色々な人に親しみを持つ交流の機会を取り入れている。	小学生ボランティアの実施や地域・保護者の読み聞かせなど、多様な人との関わりの場があることは評価できる。学童交流やデイサービス麻の葉さんへの訪問などが定着し、双方に楽しみや学びとなっている。アダプト活動の一環として、腐葉土づくりを地域の方から教えていただく機会があったが、子どもたちにつなげるまでは至らなかった。当園に関心をもつてくださる地域の方とのつながりを子どもたちの学びにしっかりとつなげたい。	B	・小中学生・学童の繋がりで不安軽減・学びとなっている ・地域とのつながりでのびのび育ってほしい ・立地の有効性を発揮して、つながりを努力している ・麻の葉への訪問で利用者との交流から、利用者の笑顔が増えて慈しみなどの感情が生まれている ・学童3年生との交流・年長児の学童訪問・ダンボールコンポスト肥料など交流が持てている	AABBB B
	園は、地域の方からの相談を聞きやすい体制を取ったり、地域の子育て支援に取り組んでいる。	赤ちゃん食堂やプレクラスの実施など子育て中の保護者の支援を開かれた園として行っている。参加者同士の交流も深まり、支援の場となっている。ただ、利用者を見てみると、在園児の妹弟の利用が多く、新規の利用者への発信をさらに試みたいところが課題と考える。	B	・食への取り組みが良い。今後も地域へ情報発信を期待する ・子育て保護者について厳しい状況の中、真摯に取り組んでいる ・子育て中の保護者を広く受け入れて多くに周知されている ・委員会でも意見に対しての取り組みのフィードバックがあると成果が見えやすい	ABBBB B
	園は、地域の活動や行事などに参加したり、園の情報を積極的に地域に対して発信している。	地域夏祭りやどんど焼きなど地域主催の大きなイベントに積極的に参加した。今年度は、主催ではないが、場所提供として「まんまるわっか市」を当園でおこなった。このように場所の提供という形でも、もっと積極的に地域に発信する機会を増やしたいと感じている。	B	・夏祭り・どんど焼きへの参加に感謝している ・園の発信に対して協力していきたい ・豊かな環境の利点を活かせている ・ツールの提供という新しい取り組みから地域への姿勢を評価 ・イベント参加についてもっとアピールがあると認知が進む	AAABC A
第三者評価	第三者評価受審の実施	2022年度 第三者評価受審済み 2025年度実施予定			